

イネカメムシ被害に注意

近年、イネカメムシの発生が拡大しています。
出穂期からの防除を徹底しましょう

イネカメムシの成虫

**体長は
1.3cm 程度**

近年、県内でイネカメムシが確認されています。
本種は、関東以西で発生し、全国に拡大しています。

本種は、**稲の穂に対する嗜好性が非常に強く**、水
稲ほ場の中で増殖し、斑点米の発生原因となります。

多発生の場合、不稔籾の発生に繋がり、減収の要
因となります。



イネカメムシの幼虫

イネカメムシの被害



不稔となり
傾穂しない

吸汁加害による不稔



玄米の基部
に被害

斑点米被害粒

イネカメムシ被害を防ぐため 以下のことに注意しましょう

発生状況

○イネカメムシは、斑点米カメムシ類の一種で、近年、関東以西で発生地域が拡大しています。県内では、西部地区で多発ほ場が見られており、今後、東部、中部地区でも被害地域の拡大が懸念されます。

生態・被害の特徴

○本種の越冬成虫は、早生品種の出穂前に越冬地から水田に飛来します。その後、早生～晩生品種のほ場に順次移動し穂を吸汁加害します。

○他の斑点米カメムシと異なり、出穂期に籾の基部周辺が吸汁されると不稔が発生し、減収します（県内で収穫皆無となった事例があります）。不稔籾の発生防止には、出穂期※の防除が重要です。

※出穂期とは、約半数の茎が出穂した日で、すべての穂が出た日（穂揃期）ではありません。

○乳熟期以降に加害されると基部斑点米となり、等級落ちの原因になります。

○周年よりも出穂が早い、もしくは遅いほ場は、本種の飛来が集中するリスクが高くなります。

○本種はイネへの嗜好性が強く、イネ科雑草に寄生する個体は少ないため、雑草管理では被害を防ぐことが困難です。

○早生～晩生品種が混在する地域では、本種にとって好適な食餌条件が続き、発生量が増加しやすくなります。

○詳しくは最寄りのJAもしくは農業改良普及所等にお問い合わせください



吸汁加害による不稔



籾の基部の吸汁痕



特徴的な基部斑点米